

◇食物栄養学科卒業生を対象とする生涯学習

[はじめに]

本学食物栄養学科の学部・大学院卒業生で、管理栄養士の専門職に就任して活躍されている方々のキャリアアップのための「生涯学習の講座」を開設し、卒業後の支援を行っている。特に、医療、福祉、企業、教育、行政などで、管理栄養士・栄養士として従事されている方や、その業務に関連する専門職についている卒業生を対象に、栄養クリニックの教職員あるいは各分野で活躍されている卒業生を講師にお招きし、最新の知見や技術の修得を目的に開催している。本講座は学習の場を提供しているだけでなく、卒業生や卒業後に管理栄養士として就職が予定されている在校生との情報交換の場にもなっている。

[内 容]

まず、平成23年3月に実施し、昨年度の報告書にその内容が記載できなかった講座1件と本年度は下記に示すように、2件の生涯学習講座が開催されたが、平成24年1月の開催講座について報告し、平成24年2月開催予定の講座は次年度に報告することとする。

・平成23年3月5日（土）1時30分～4時30分

場所：栄養クリニック1階

テーマ：臨床現場での管理栄養士の取り組み

講師：浦瀬真理子氏 大阪医科大学附属病院（935床）管理栄養士（勤務歴6年）

藤井 千穂氏 大阪四条畷 田原病院（45床）管理栄養士（勤務歴6年）

開会のことば：中山玲子 指導教員

講師紹介：木戸詔子 指導員 座談会司会：米浪直子 指導教員

閉会のことば：宮崎由子 指導教員

・平成24年1月28日（土）2時～4時30分

場所：栄養クリニック1階

テーマ：魅力的な栄養指導

講師：栄養クリニック指導員 日野千恵子

開会のことば：栄養クリニック長 田中清

講師紹介：木戸 詔子 指導員

座談会司会：日野千恵子 指導員

閉会のことば：木戸 詔子 指導員

・平成24年 2 月25日（土）

場所：栄養クリニック 1 階

テーマ：カーボカウントってなに？

講師：栄養クリニック指導員 日野千恵子

事例紹介 1 「臨床現場で活躍する管理栄養士からの報告」

本学管理栄養士課程を卒業して病院で勤務して 6 年目に当たるお二人の管理栄養士の方を講師としてお招きし、各々 20 分の講演をしていただいた。病院の管理栄養士並びに病院管理栄養士として勤務予定にある卒業生など 18 名と、4 回生で病院管理栄養士として勤務が決定している 11 名の参加があった。

大規模の大学附属病院の管理栄養士として勤務されている浦瀬氏からは、特に、栄養相談や NST 活動実態の中での管理栄養士の業務紹介、小児糖尿病患者対象のサマーキャンプでの活動実態や難病患者の対応例などが紹介され、日々積極的な態度で、医師、薬剤師、臨床検査師、看護師など様々な医療専門職との連携をとることの重要性などを伺うことができた。卒業後、実践現場で 6 年の研鑽を積み施設の管理栄養士の一員として立派に役割を果たされている活動実態を伺うことができ、大規模の病院栄養士の日常の勤務内容がイメージでき、大変興味深い内容であった。

一方、地域に密着した小規模の病院管理栄養士である藤井氏からは、先輩のいない病院で、栄養管理業務がスムーズにできるように一つ一つ、システムを丁寧に構築していったことや、主治医からの指示で管理栄養士の業務が開始されるが、栄養に興味をもって、的確に対応してくれる医師でない場合は、管理栄養士任せになること、また、栄養療法の方針を検討する場がないことも多いので、管理栄養士自身が勉強して一つ一つ解決していかなければならないなど、病院栄養士としてこれから勤務する方に、大変有益な内容であった。

講演後の意見交換会では、沢山の熱心な質問があり、お二人の講師から丁寧にお答えいただき、大幅に時間延長になったが、大好評で、この生涯学習を度々開催して欲しいとの声が多かった。



講演 1



講演 2

【参加者の主な感想】

- 管理栄養士として働くに当たり、実際に勤務している先輩方から話を聞くことができ、とてもよい刺激になった。何を目標に働くのか改めて考えさせられるなど、大変参考になり、お二人の勤務姿勢に心打たれました。
- 病院の管理栄養士といっても、施設によって様々な特色があり、ニーズに合わせる必要があることを学び、考えさせられ、勉強になる内容が沢山ありました。また、管理栄養士がこんなにやりがいのある仕事だということに、改めて気付かされました。
- 病院では管理栄養士の同期がおらず、些細な相談などできないが、このような機会があると日常の不安が解消され、大変有意義であった。また、病院に管理栄養士が一人しか居ないので、他病院での取り組み方が聞けたり、病院の規模による業務内容の違いにも驚き、とてもよい勉強ができました。

(木戸詔子)



座談会



座談会

事例紹介 2 「魅力的な栄養指導」

管理栄養士として病院に就職している卒業生の皆さん方には、就職と同時に栄養指導実践を求められることも少なくない。まず実践の基本を学び、栄養指導実践が苦痛にならないようにしてほしいという気持ちで37年間の病院栄養士勤務経験をもつ日野が講師を担当した。

「仕事を通してどんな自分づくりを目指すのか」という自分なりの課題をもって業務にあたることは、更にやりがいを引き出すものである。実践することが自分にとっての成長の場と位置づけられれば、仕事は「素敵な自分づくり」の場と考えられる。コミュニケーション力を磨き、楽しい職場づくりをすることは生きていく上でも大きな力になる。対面で自分が試される栄養指導の業務は絶好の成長チャンス。プロフェッショナルとしての仕事は自分づくりの場と考え、いい職場をつくるためのコミュニケーションポイントを学んだ。

栄養指導を効果的にこなうための心構え、栄養指導前の食生活質問項目、その情報から何をよみとるかの着眼点（Plan・Do・Assessmentの指導）を学び、魅力的な相談者をめざす100項目のセルフチェックを行った。また、医療従事者共通のPOS（問題志向型）システムによる報告書の書き方や問題整理分析のやり方を練習症例をもとに演習した。



栄養クリニック長挨拶



講演

【参加者の主な感想】

- ・栄養指導をしていく上で改めて患者さんとのコミュニケーション、病棟スタッフとの連携が大切と感じました。仕事を通してのステキな自分づくりという言葉が印象に残りました。
- ・人との話し方や聞き方を気をつけていこうと思いました。
- ・病院の栄養指導を始めたばかりなので今回の話は大変参考になりました。まず魅力的な人間になることから始めたいと思います。
- ・栄養士として心がけるべきことを改めて思い出すことができました。
- ・報告書の書き方など実践的な内容ですごく勉強になりました。

(日野千恵子)